

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認のうえ、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:00~12:00, 13:00~17:00

●フリーダイヤル

0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。
※長くお待たせする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部	TEL (03) 5783-0626	●北陸支店	TEL (076) 263-4311
●北海道支店	TEL (011) 786-5122	●関西支店	TEL (0798) 37-2665
●東北支店	TEL (022) 288-8676	●中国支店	TEL (082) 504-8282
●関東支店	TEL (03) 6374-5687	●四国支店	TEL (087) 863-6761
●中部支店	TEL (052) 533-0231	●九州支店	TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

<https://www.hikoki-powertools.jp/relation/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認い
ただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6018 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)

営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>

部品コード C99742001 106 G

HiKOKI

取扱説明書

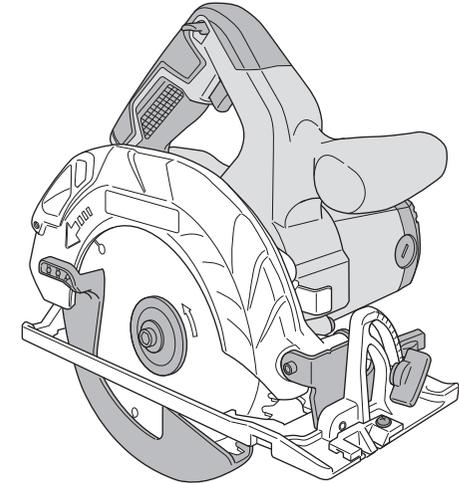
コードレス丸のこ

165 mm FC 1806DA

用途

- 各種木材の切断
- 各種化粧板、薄物樹脂板、軟質新材の切断

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



はじめに	コードレス工具の安全上のご注意	1
	本製品の使用上のご注意	4
	リチウムイオン電池の使用上のご注意	7
	各部の名称	9
	仕様	10
標準付属品	標準付属品	11
	別売部品	12

使い方	スイッチの操作について	12
	蓄電池の取りはずし・取付け	13
	工具本体の電池残量表示について	13
	蓄電池の電池残量表示について	14
	1 充電当たりの切断量	14
	六角棒スパナの収納方法	15
	ガイドの取付け方	15
	直角度の調整	16
	ガイドピースの調整	16
	ご使用前の点検	17
	ダクトアダプタ (別売部品) の使い方	19
	キックバックについて	20
	直角に切断する	21
傾斜切断する	23	
のこ刃の交換	25	

その他	保守・点検	27
	ご修理のときは	裏表紙

本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、**⚠注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

コードレス工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

- ① **専用の充電器や蓄電池を使用してください。**
弊社カタログに記載されている指定の充電器や蓄電池を使用してください。指定以外の蓄電池を使用すると、破裂して傷害や損害を及ぼす恐れがあります。
- ② **蓄電池の端子間を短絡（ショート）させないでください。**
釘袋などに入れると、短絡（ショート）して、発煙・発火・破裂などの恐れがあります。
- ③ **蓄電池の内部に、水のような導電性の液体を入れないでください。**
発熱・発火・破裂などの恐れがあります。
- ④ **作業場や保管場所の周囲状況も考慮してください。**
 - 工具本体や蓄電池は、雨の中や湿った場所で使用・放置・保管をしないでください。感電や発煙の恐れがあります。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
暗い場所での作業は、事故の原因になります。
 - 可燃物、可燃性あるいは腐食性の液体やガスがある所での使用・充電・保管をしないでください。発火や火災の恐れがあります。
- ⑤ **保護メガネを使用してください。**
作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
切削した物や粉じんが目や鼻に入る恐れがあります。
- ⑥ **加工する物をしっかりと固定してください。**
加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。
手で保持するより安全で、両手でコードレス工具を使用できます。
固定が不十分な場合は、加工する物が飛んで、けがの原因になります。

⚠警告

- ⑦ **次の場合は、コードレス工具のスイッチを切り、蓄電池を工具本体から取りはずしてください。**
 - 使用しない、または、準備・調整・保守・点検・修理する場合。
 - 付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
コードレス工具が作動して、けがの原因になります。
- ⑧ **不意な始動は避けてください。**
スイッチに指を掛けて運ばないでください。
コードレス工具が作動して、けがの原因になります。
- ⑨ **指定の付属品やアタッチメントを使用してください。**
この取扱説明書、および弊社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメントを使用してください。事故やけがの原因になります。
- ⑩ **蓄電池を火の中に投入しないでください。**
破裂して、有害物質が出る恐れがあります。

⚠注意

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**
散らかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **子供を近づけないでください。**
 - 作業員以外、コードレス工具に触れさせないでください。けがの原因になります。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。
 - 安全に責任を負う人の監視または指示がないかぎり、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
- ③ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
 - 乾燥した場所で、子供の手が届かない所または鍵のかかる所に保管してください。事故の原因になります。
 - 工具本体や蓄電池を、温度が50℃以上に上がる可能性のある場所（金属の箱や夏の車内など）に保管しないでください。
蓄電池劣化の原因になり、発煙、発火の恐れがあります。
- ④ **無理して使用しないでください。**
 - 安全に能率良く作業するために、コードレス工具の能力に合った速さで作業してください。能力以上での使用は、事故の原因になります。
 - モーターがロックするような無理な使い方はしないでください。
発煙、発火の恐れがあります。
- ⑤ **作業に合ったコードレス工具を使用してください。**
 - 小形のコードレス工具やアタッチメントは、大形のコードレス工具で行う作業には使用しないでください。けがの原因になります。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。けがの原因になります。

⚠注意

- ⑥ **きちんとした服装で作業してください。**
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、着用しないでください。回転部に巻き込まれる恐れがあります。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。滑りやすい手袋や履物は、けがの原因になります。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。回転部に巻き込まれる恐れがあります。
- ⑦ **無理な姿勢で作業をしないでください。**

常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。転倒して、けがの原因になります。
- ⑧ **コードレス工具は、注意深く手入れをしてください。**
 - 安全に能率良く作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。損傷した刃物類を使用すると、けがの原因になります。
 - 付属品や先端工具の取付け・取りはずしは、取扱説明書に従ってください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースが付かないようにしてください。けがの原因になります。
- ⑨ **調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**

スイッチを入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。付けたままでは、作動時に飛び出して、けがの原因になります。
- ⑩ **油断しないで十分注意して作業をしてください。**
 - コードレス工具を使用する場合は、取扱い方法、作業の仕方、周りの状況など、十分注意して慎重に作業をしてください。軽率な行動をすると、事故やけがの原因になります。
 - 常識を働かせてください。非常識な行動をすると、事故やけがの原因になります。
 - 疲れている場合は、使用しないでください。事故やけがの原因になります。
- ⑪ **損傷した部品がないか点検してください。**
 - 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
 - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
 - 破損した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - スイッチで始動および停止操作のできないコードレス工具は、使用しないでください。誤作動して、けがの原因になります。
- ⑫ **コードレス工具の修理は、専門店に依頼してください。**
 - サービスマン以外の方は、工具本体や蓄電池の分解・修理・改造をしないでください。発火や誤作動など、けがの原因になります。
 - コードレス工具が高温になるなど、異常に気付いたときは、点検・修理に出してください。
 - この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

本製品の使用上のご注意

先にコードレス工具として共通の注意事項を述べましたが、コードレス丸のこについて、次に述べる注意事項を守ってください。

⚠警告

- ① **保護カバーを固定しないでください。また、円滑に動くことを確認してください。**

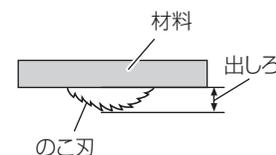
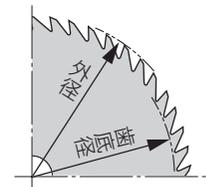
のこ刃が露出していると、けがの原因になります。
- ② **のこ刃は、銘板に表示してある範囲内ののこ刃を使用してください。また、歯底径が134 mm以下ののこ刃は使用しないでください。**

保護カバーのおおいが不完全となり、けがの原因になります。
- ③ **切断する材料は、安定性の良い台に置いてください。**
 - のこ刃が材料の下面より出ますので、作業台の上に置いて材料を切断します。
 - 材料の切り残り側を、しっかり押さえてください。
 - クランプで固定するなどしてしっかり押さえれば、両手で作業することができます。

台が不安定であると、けがの原因になります。
- ④ **切り落とし寸前や切断中に、材料の重みでのこ刃が挟み付けられないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。**
- ⑤ **材料の切り落とし側が大きいときは、切り落とし側にも安定性の良い台を設けてください。また、切り落とした材料がのこ刃と接触し、飛散するのを防止するために、台の高さは、のこ刃の出しろの3倍以上にしてください。**
- ⑥ **使用中は、機体を確実に保持してください。**
- ⑦ **使用中は、のこ刃や回転部、切りくずの排出部へ手や顔などを近づけないでください。**
- ⑧ **切断途中や切断後、のこ刃を回転させたまま機体を戻さないでください。**

スイッチを切り、回転が完全に止まってから機体を持ち上げるようにしてください。

回転させたまま機体を戻したり、持ち上げたりすると、キックバックが発生する原因になります。
- ⑨ **使用中、機体が高温になったり、異常音、異常振動がしたりするときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。**



⚠警告

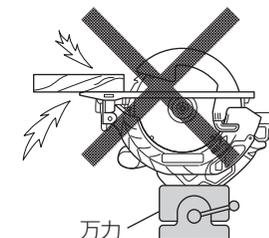
- ⑩ 誤って落としたり、衝撃が加わったりしたときは、のこ刃や機体などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。
- ⑪ 雨または湿気がある状態にさらさないでください。
雨の中や湿った場所で使用・放置・保管をしないでください。故障や感電、発煙の恐れがあります。
- ⑫ 工具本体の端子部（蓄電池取付部）に、切りくずやほこりがたまらないようにしてください。
 - 使用前に、端子部に切りくず、ほこりがたまっていないことを確認してください。
 - 作業中に、機体に付いた切りくず、ほこりが端子部に降りかからないようにしてください。
 - 使用中断時、および使用後に切りくず、ほこりが降りかかる場所に機体を放置しないでください。
短絡（ショート）して、発煙・発火などの恐れがあります。
- ⑬ 工具本体の端子部（蓄電池取付部）に変形が生じた場合は、使用しないでください。
短絡（ショート）して、発煙・発火の恐れがあります。

⚠注意

- ① のこ刃（チップソー）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
- ② のこ刃にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。
- ③ 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
- ④ 作業前に、周囲の安全を確認してから空転させ、機体の振動やのこ刃の面振れなどの異常がないことを確認してください。
- ⑤ ブレーキが働くときの反発力に注意してください。
機体を落としたりし、けがの原因になります。
- ⑥ 切断する材料の下に障害物がないことを確認してください。
キックバックが発生する原因になります。
- ⑦ 材料に釘などの異物が付いてないことを確認してください。また、用途以外の材料（金属など）は切断しないでください。
のこ刃が破損したり、キックバックが発生する原因になります。
- ⑧ 切断しようとする材料の上に手を置いたまま作業しないでください。

⚠注意

- ⑨ 機体を万力などで保持した使い方はしないでください。
- ⑩ 高所作業のときは、下に人がいないことを確かめてください。
- ⑪ 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。
- ⑫ LEDライトをのぞき込んで、直接ライトの光を目に当てないでください。
- ⑬ スイッチパネルに強い衝撃を与えたり、破いたりしないでください。
- ⑭ 蓄電池は確実に取付けてください。



○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

⚠警告マークについて



このマークのある操作・手順では、必ずスイッチを切り、蓄電池を工具本体から取りはずしてください。
蓄電池を工具本体に装着したまま準備や点検、先端工具の交換などをすると、予期できない作動を招いて事故やけがの原因になります。

リチウムイオン電池の使用上のご注意

本製品はリチウムイオン電池を使用します。リチウムイオン電池には、寿命を長くする目的で出力を停止する保護機能が付いています。

下記①、②、③の場合、本製品を使用中にモーターが停止することがあります。これは保護機能によるものであり故障ではありません。

- ① 電池残量が少なくなるとモーターが停止します。
速やかに充電してください。
- ② 工具本体が過負荷状態になるとモーターが停止する場合があります。
スイッチを切り、過負荷の原因を取り除いてください。
- ③ 蓄電池が過熱状態になるとモーターが停止する場合があります。
蓄電池の使用を中断し、工具本体より取りはずして、風通しの良い日かげなどで蓄電池を十分に冷ましてください。

再びご使用になれます。

さらに蓄電池の液漏れ、発熱・発煙・発火を未然に防ぐため、次に述べる注意事項を守ってください。

警告

- ① 蓄電池の端子部に、切りくずやほこりがたまらないようにしてください。
 - 使用前に、端子部に切りくず、ほこりがたまっていないことを確認してください。
 - 作業中に、機体に付いた切りくず、ほこりが端子部に降りかからないようにしてください。
 - 使用中断時、および使用後に切りくず、ほこりが降りかかる場所に機体を放置しないでください。
- ② 誤って落とすなど、蓄電池の端子部に変形が生じた場合は、使用しないでください。また、外傷、変形の著しい蓄電池は使用しないでください。
- ③ 蓄電池に釘をさす、ハンマーでたたく、踏みつける、投げつけるなど強い衝撃を与えないでください。
- ④ 蓄電池を指定機器以外の用途に使わないでください。
- ⑤ 蓄電池を電子レンジや高圧容器に入れるなど、過熱・高圧を与えないでください。
- ⑥ 蓄電池が液漏れしたり、異臭を発したりするときは直ちに火気より遠ざけてください。
- ⑦ 強い静電気の発生する場所では使用しないでください。
- ⑧ 蓄電池の使用、充電、保管時に異臭・発熱・変色・変形、その他異常に気が付いたときは、直ちに使用を中止して、お買い求めの販売店に相談してください。

注意

- ① 蓄電池が液漏れして液が目に入ったときは、こすらずにすぐ水道水などのきれいな水で十分に洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。
放置すると液により目に障害を与える原因になります。
- ② 蓄電池が液漏れして液が皮膚や衣類に付着した場合は、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。
皮膚がかぶれたりする原因になる恐れがあります。
- ③ 蓄電池を一般のごみと一緒に捨てないでください。
- ④ 蓄電池は子供の手の届かない所に保管してください。
- ⑤ 蓄電池の仕様表示に従って正しく使用してください。

蓄電池はリサイクルへ

蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源です。蓄電池を廃棄する際は、リサイクルにご協力いただき、お買い求めの販売店にご持参ください。

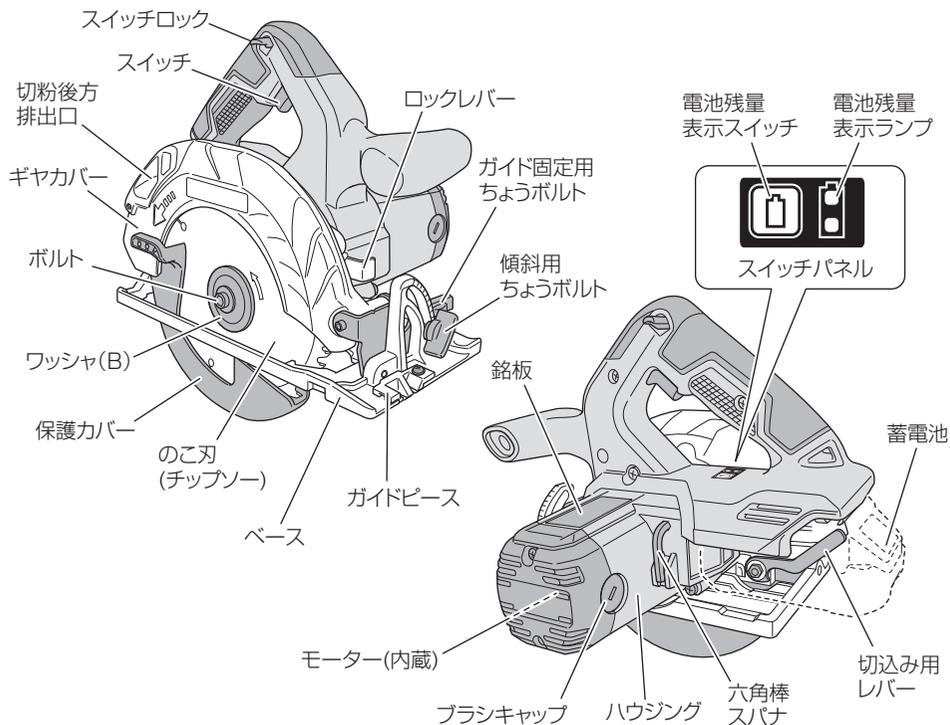


○ 新しい蓄電池は、弊社純正品をご使用ください

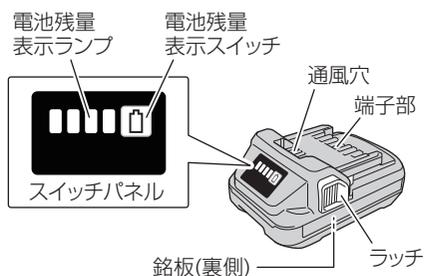
弊社指定の蓄電池以外の使用や分解、改造した物（蓄電池を分解してセルなどの内蔵部品を交換した物を含みます）は、安全性や製品に関する保証はできません。

各部の名称

工具本体



蓄電池



仕様

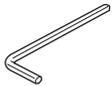
1. 工具本体

形名	FC 1806DA
モーター	直流モーター
最大切込み深さ	57 mm (90°) / 38 mm (45°)
使用できるのこ刃	外径 157 ~ 165 mm × 穴径 20 mm
無負荷回転数	3,800 min ⁻¹ {回/分}
寸法 全長 × 高さ × 全幅	320 × 267 × 212 mm (BSL 1820M装着時)
質量	3.4 kg (BSL 1820M装着、のこ刃除く)
使用可能蓄電池	リチウムイオン電池 マルチボルトタイプ蓄電池 または 18 V (BSL 18xxシリーズ)
残量表示ランプ	赤色 LED

2. 蓄電池

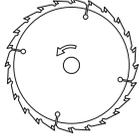
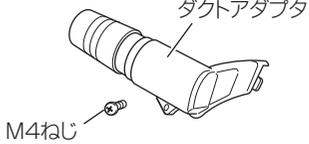
形名	BSL 1820M
種類	円筒密閉形リチウムイオン電池
電池電圧	18 V
容量	2.0 Ah
冷却	対応
使用可能コードレス製品	18 V スライド式リチウムイオン電池対応製品
使用可能充電器	スライド式リチウムイオン電池対応充電器 UC 36xxx、UC 18xxxシリーズ
残量表示ランプ	緑色 LED

標準付属品

部 品 名	仕 様	BG	NN
チップソー 外径 165 mm 穴径 20 mm 刃数 24 P		1 枚 (本体装着)	1 枚
六角棒スパナ		1 本 (本体収納)	1 本 (本体収納)
ガイド		1 本	1 本
蓄電池 BSL 1820M		1 個 (本体装着)	—
充電器 ●取扱い方法は、充電器の取扱説明書を確認してください。		1 台	—
収納ケース		1 個	—
電池カバー		1 個	—

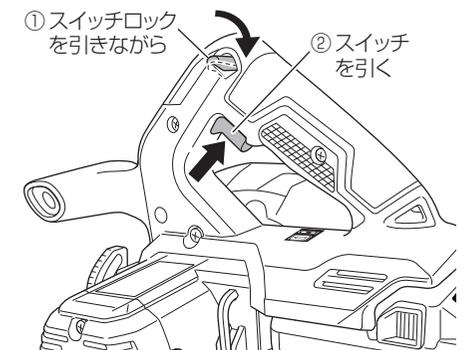
別売部品 (別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。)

詳しくは、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

蓄電池 ●BSL 18xx シリーズ ●マルチボルトタイプ蓄電池 	のこ刃 (チップソー) 各種取りそろえております。 用途に応じてお選びください。 
ダクトアダプタ 切粉排出口に取付けて、集じん機に接続します。(P.19 参照) 	

スイッチの操作について

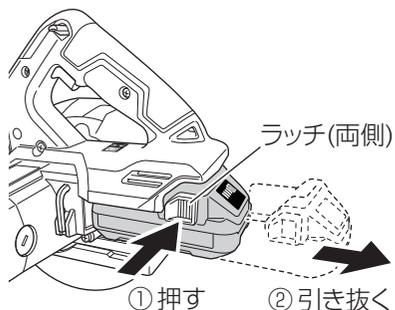
- 1 本機は安全に操作していただくため、ハンドル側面に「スイッチロック」が付いています。「スイッチロック」を矢印側に引いた状態でスイッチを引くと本体スイッチが入ります。
- 2 本体スイッチが入った後は、スイッチロックから手をはなしても、スイッチを引いているかぎり、運転を続けます。
- 3 スwitchをはなすと本体スイッチが切れます。同時に「スイッチロック」は自動的に戻ります。



蓄電池の取りはずし・取付け

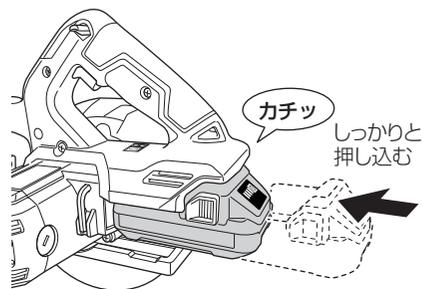
取りはずすとき

蓄電池を工具本体から取りはずすときは、両側のラッチを押しながら、スライドさせて引き抜きます。



取付けるとき

蓄電池を取付けるときは、「カチッ」と音がするまでしっかりとさし込んでください。

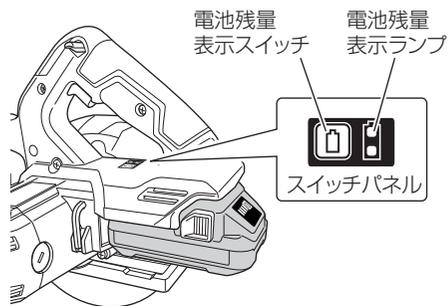


工具本体の電池残量表示について

電池残量表示スイッチを押すとランプが点灯して、電池残量を確認することができます。

電池残量表示スイッチから指をはなすとランプは消灯します。

電池残量表示は、使用環境、蓄電池の状態などにより異なりますので目安としてください。



注 電池の消耗を少なくするため、電池残量表示スイッチを押している間のみ、ランプが点灯します。

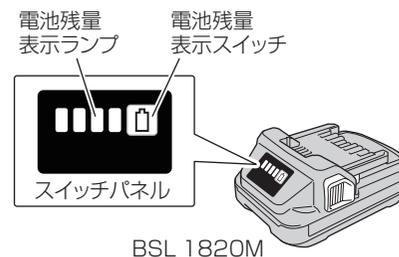
注 残量表示機能のある蓄電池を使用する際は、蓄電池側の残量表示を参照してください。

蓄電池の電池残量表示について

電池残量表示スイッチを押すとランプが点灯して、電池残量を確認することができます。

電池残量表示スイッチを押してから、約3秒後にランプは消灯します。

電池残量表示は、使用環境、蓄電池の状態などにより異なりますので目安としてください。



注 残量表示機能のある製品を使用した場合、製品側と蓄電池側の残量表示が異なる場合があります。

ランプの点灯状態	電池残量
	75% 以上
	点灯 50% ~ 75% 未満
	25% 未満
	0%
	点滅 高温のため出力停止*1 故障のため出力停止*2

※1: 蓄電池を工具本体より取りはずし、十分に冷ましてください。

※2: 蓄電池の故障と考えられますので、お買い求めの販売店にご相談ください。

1 充電当たりの切断量

切断量は、木材の状態、のこ刃の種類、使用環境、蓄電池の状態などにより異なります。

(蓄電池 BSL 1820M 使用時)

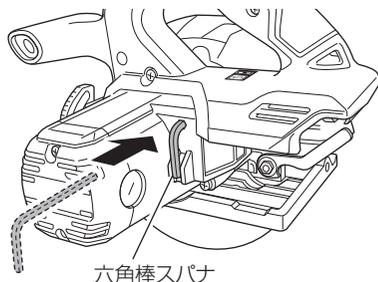
材 料	切断量
SPF(2×8)	55 カット
たる木(杉) 45 mm 角材	150 カット

1 回の充電による切断量を増すためには

- 切断するとき以外の運転(無負荷運転)は少なくしてください。
- 切断中に機体をこじったり、強く押ししたりして、モーターに無理をかけないでください。
- 切れ味の悪いのこ刃は使用しないでください。

六角棒スパナの収納方法

のこ刃の取付け・取りはずしに使用する六角棒スパナは、本体に収納できます。

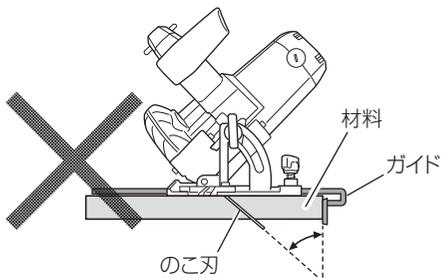


六角棒スパナ

ガイドの取付け方

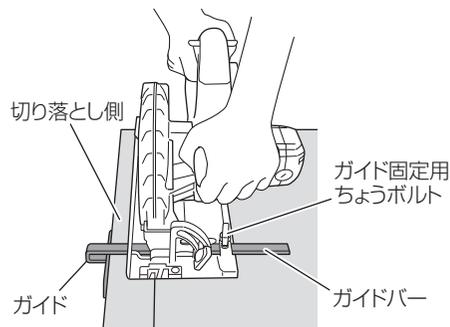
警告

ガイドを使用する際、のこ刃とガイドの間に切り落とし材が挟まるような傾斜切断はしないでください。のこ刃が材料を巻き込んで、思わぬけがの原因になります。



ガイドは材料の端面に対して平行に切断するときを使用します。次の手順で取付けてください。

- ① ガイドのガイドバーを、ベース側面（切り落とし側）前方の穴に通します。
- ② ガイドを左右に動かして切断位置を調整し、前方のガイド固定用ちょうボルトを締め、ガイドバーをしっかりと固定します。

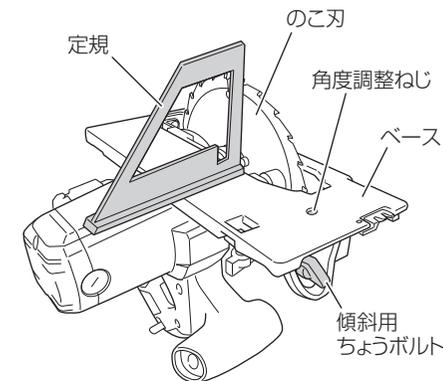


直角度の調整

直角度（ベースとのこ刃の角度）は、工場出荷の際に調整してありますが、角度がズレていた場合は調整してください。

- 1 傾斜用ちょうボルトをゆるめ、ベース底面とのこ刃に定規を当てて直角度を出し、ちょうボルトを軽く締めます。

- 2 角度調整ねじの先端がベースの金属製部品に当たるまで、六角棒スパナ（3mm）で角度調整ねじを回し、傾斜用ちょうボルトをしっかりと締めます。

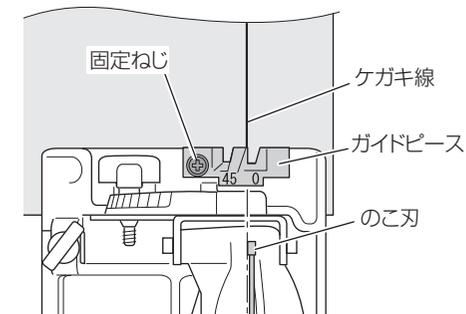
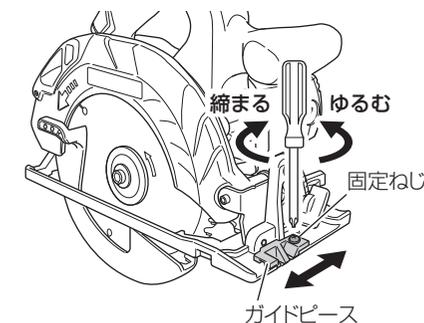


ガイドピースの調整

ガイドピースの取付け位置を調整できます。

ガイドピース切欠部の直線部分をのこ刃の刃部側面に合わせてありますが、取付け位置がズレた場合は、ガイドピースの固定ねじをゆるめ、ガイドピースを左右に動かし位置を調整してください。

また、直角切断もしくは45°傾斜切断を行う場合、それぞれの角度に合わせてガイドピースの位置を調整してください。

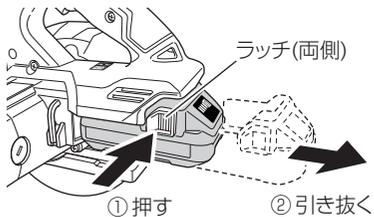


【直角切断のとき】

ご使用前の点検

1 蓄電池を取りはずす

両側のラッチを押しながら、スライドさせて引き抜きます。

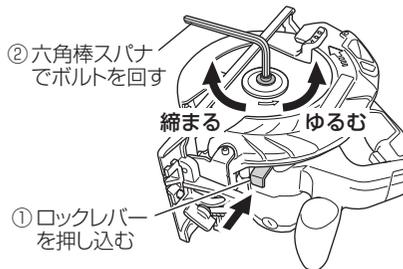


警告

② ロックレバーや⑤ スイッチおよびスイッチロックが元の位置に戻らない場合、④ 保護カバーが円滑に動かない場合、⑦ ブレーキが正常に作動しない場合は、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

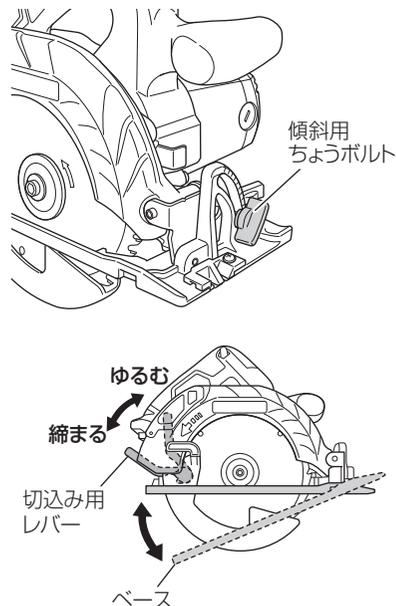
2 のこ刃の締付けを確かめる

ロックレバーを押し込みながら、付属の六角棒スパナ(本体収納)で、ボルトを時計方向に回すと、のこ刃の回転が止まる位置があります。その状態のまま締付けます。



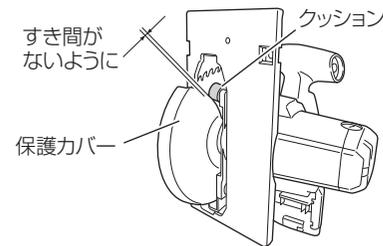
のこ刃を締付けた後、ロックレバーが元の位置に戻ることを確認してください。

3 切込み用レバー、傾斜用ちょうボルトの締付けを確かめる



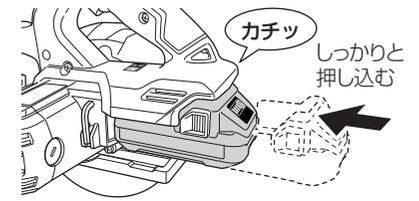
4 保護カバーの動きを確かめる

- 保護カバーは、のこ刃が体に触れることを防ぎます。のこ刃をおおうように円滑に動くことを確認してください。
- ベース面を垂直に立てたとき、保護カバーとクッションにすき間がないことを確認してください。



6 蓄電池を取付ける

下図の向きで、「カチッ」と音がするまで、しっかりと押し込んでください。



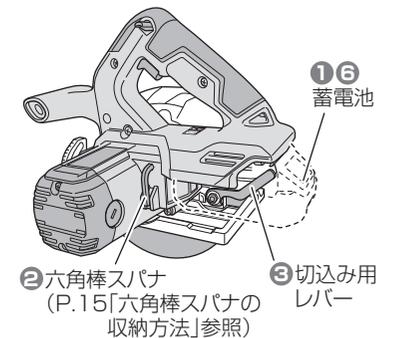
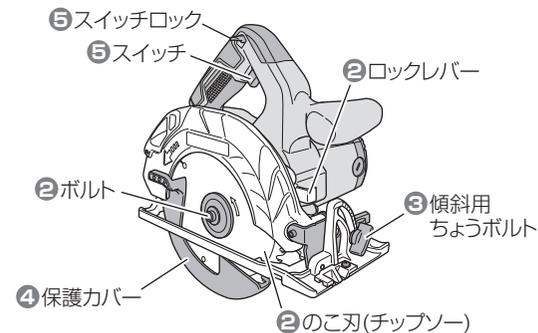
7 ブレーキがかかることを確かめる

本製品はスイッチを切ると同時に、のこ刃の回転にブレーキがかかる構造になっています。

使用前に、ブレーキがかかることを確認してください。

5 スイッチおよびスイッチロックの動きを確かめる

- スイッチロックは、機体が不意に起動することを防ぎます。
- スイッチロックを押しながらスイッチを引きます。スイッチロックをなした後、スイッチをなします。スイッチ、およびスイッチロックが元の位置に戻ることを確認してください。

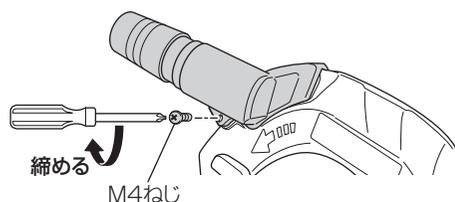
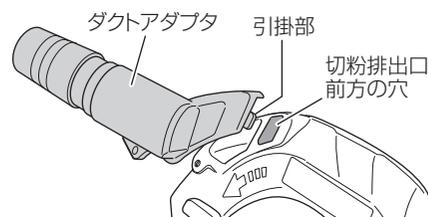
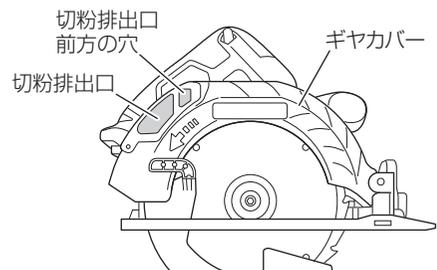


ダクトアダプタ (別売部品) の使い方

集じん機と接続する際、ギャカバーの切粉排出口にダクトアダプタを取付けて使用します。集じん機に接続する際、集じん機側のホース内径がφ31 mmの物が接続できます。その他のホースサイズの物は、別売のホースアダプタが必要ですのでお買い求めの販売店にお問い合わせください。

取付け方

- ① ダクトアダプタの引掛部を、ギャカバーの切粉排出口前方の穴にさし込みます。
- ② ダクトアダプタに付属の M4 ねじでダクトアダプタを締付け、ギャカバーに固定します。



キックバックについて

キックバックとは

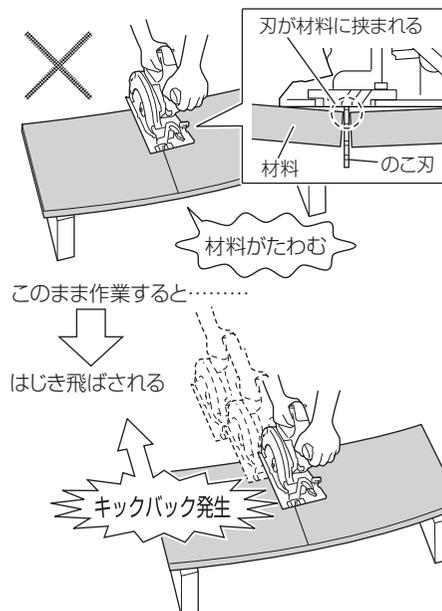
回転中ののこ刃に、急激に大きな負荷がかかり、回転数が急速に低下したとき、反発によって材料もしくは機体が作業者側にはじき飛ばされる現象です。

キックバックを発生させる原因

キックバックを発生させる原因としては

- ① 材料によるのこ刃の挟み込み
- ② 曲線切りなど、機体をこじる作業
- ③ 材料にのこ刃の刃先を当てた状態での起動

ほかにも、劣化したのこ刃の使用やかたい未乾燥材の切断、過度に深い切込み設定、過大な押し付けなど、複合的な原因があります。



キックバックを避けるには

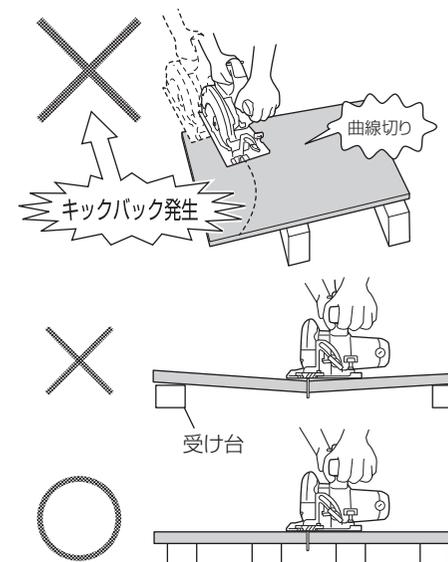
材料によるのこ刃の挟み込みは、キックバックが発生する最大の原因です。

材料の設置方法を注意することで、のこ刃の挟み込みを少なくすることができます。

材料の下に受け台を適切に設置します。

切断する材料が長い場合、端部に近い所に受け台を設置すると、切断中に材料がたわんで、のこ刃を挟み込みます。

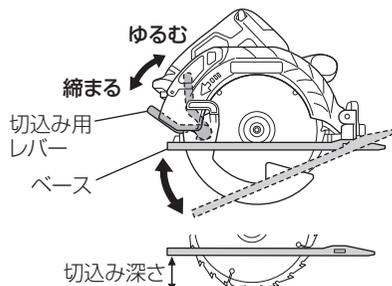
切断する部分に近い位置に受け台を設置するか、切り落とし側にも同じ高さの受け台を設置してください。



直角に切断する

1 切断する材料の厚みに応じて切込み深さを調整する

切込み用レバーをゆるめ、ベースを上下させて調整し、切込み用レバーを締付けてベースを固定します。

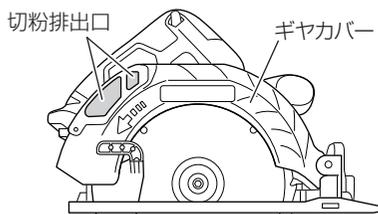


注 切込み深さを調整するときは、のこ刃ののり量を実測してください。

●切粉の排出について

切断された材料の切粉は、ギヤカバーの切粉排出口から出されますが、材料の種類・切断方法等によって切粉がギヤカバーに詰まる場合があります。

その際は、のこ刃をはずし、切粉排出口から空気を強く吹き付けるか、または、やわらかい針金等で詰まった切粉を取り除いてください。

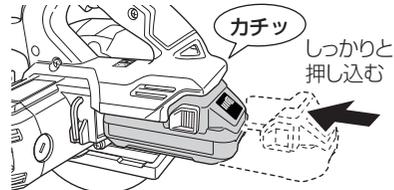


警告

切込み深さの調整後、ベースがしっかり固定されていることを確認してください。

2 蓄電池を取付ける

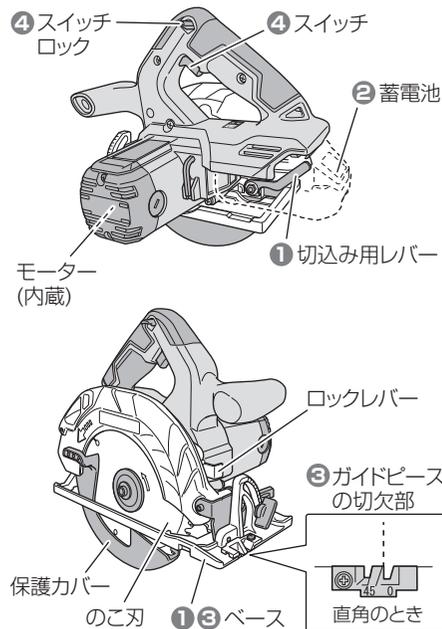
下図の向きで、「カチッ」と音がるまで、しっかりと押し込んでください。



警告

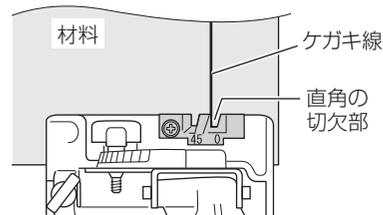
- スイッチロックを固定しないでください。また、運搬時にはスイッチから指をはなしてください。不意にモーターが起動し、思わぬ事故をおこすことがあります。
- 切断中に機体をこじったり、強く押し付けたりしないでください。キックバックが発生する原因になります。また、のこ刃の寿命を短くします。
- のこ刃を上向き、横向きにした使い方はしないでください。

- 注**
- 切断を始める前に、のこ刃の回転が最高速になるようにしてください。
 - ロックレバー (P.9 の図参照) は、のこ刃軸を固定しますので、モーター運転中は押さないでください。
 - 材料からベース底面が浮き上がった状態で切断しないでください。
 - のこ刃のロック等により切断を途中で中断したときは、スイッチを切り最初の切断位置まで機体を戻してから、再度スイッチを入れ切断を始めてください。
 - 連続運転等により、機体の温度が上がります。このときは、機体をしばらく休ませてください。再び使用できます。



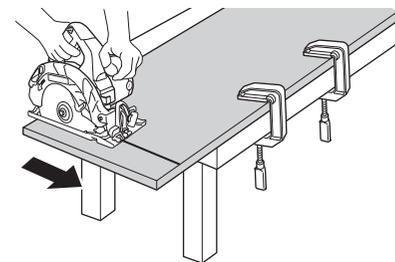
3 ケガキ線に合わせる

材料の上に機体 (ベース) を載せ、ケガキ線にガイドピースの直角の切欠部を合わせます。



4 スイッチを入れ、ゆっくり前方に進める

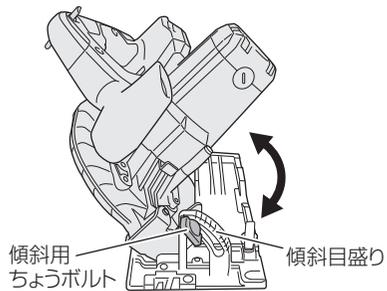
- のこ刃が材料に触れない状態でスイッチを入れ、そのまま機体をゆっくり前方に進め、切り終わるまでこの状態を保つようにします。
- ひき肌をきれいにするには、一定の速さでまっすぐに進めてください。



傾斜切断する

1 傾斜角度を調整する

- 傾斜用ちょうボルトをゆるめ、傾斜角度を調整します。この刃をベースに対して、最大 45°まで傾けることができます。
- ちょうボルト締付け部に、5°刻みの傾斜目盛りが付いています。正確な角度で切断したい場合は、ベースとの刃の角度を定規で実測してください。

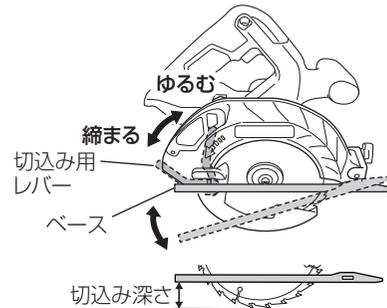


警告

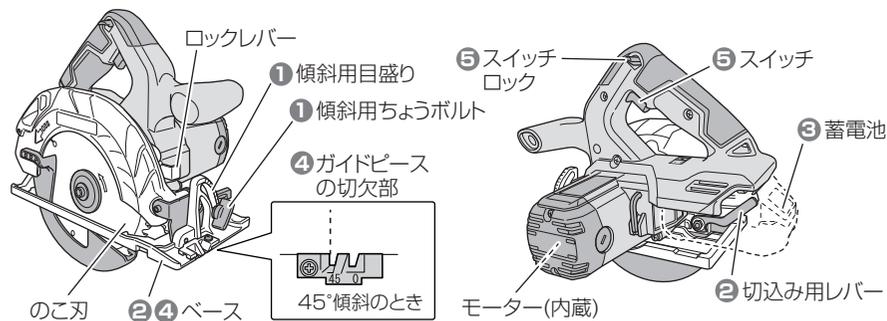
調整後、傾斜用ちょうボルト、および切込み用レバーをしっかりと締付けてください。

2 切断する材料の厚みに応じて切込み深さを調整する

切込み用レバーをゆるめ、ベースを上下させて調整し、切込み用レバーを締付けてベースを固定します。



注 切込み深さを調整するときは、この刃のばり量を実測してください。

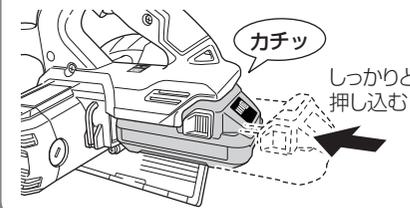


警告

- スイッチロックを固定しないでください。また、運搬時にはスイッチから指をはなしてください。不意にモーターが起動し、思わぬ事故をおこすことがあります。
- 切断中に機体をこじったり、強く押し付けたりしないでください。キックバックが発生する原因になります。また、この刃の寿命を短くします。
- この刃を上向き、横向きにした使い方はしないでください。

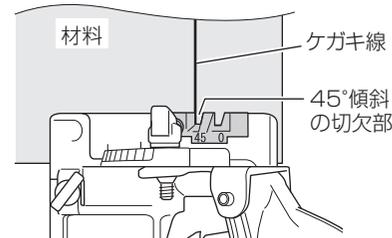
3 蓄電池を取付ける

下図の向きで、「カチッ」と音がするまで、しっかりと押し込んでください。



4 ケガキ線に合わせる

45°傾斜するときは、材料の上に機体(ベース)を載せ、ケガキ線のガイドピースの小さい切欠部を目安に合わせます。

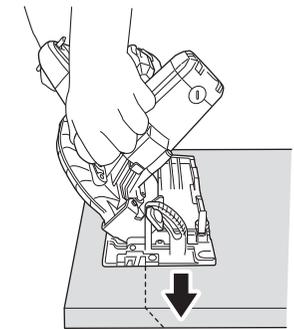


注 切断を始める前に、この刃の回転が最高速になるようにしてください。

- ロックレバー(P.9の図参照)は、この刃軸を固定しますので、モーター運転中は押さないでください。
- 材料からベース底面が浮き上がった状態で切断しないでください。
- この刃のロック等により切断を途中で中断したときは、スイッチを切り最初の切断位置まで機体を戻してから、再度スイッチを入れ切断を始めてください。
- 連続運転等により、機体の温度が上がります。このときは、機体をしばらく休ませてください。再び使用できます。

5 スイッチを入れ、ゆっくり前方に進める

- この刃が材料に触れない状態でスイッチを入れ、そのまま機体をゆっくり前方に進め、切り終わるまでこの状態を保つようにします。
- ひき肌をきれいにするには、一定の速さでまっすぐに進めてください。



- ガイドを使って切断する際には、P.15「ガイドの取付け方」を参照してください。

のこ刃の交換

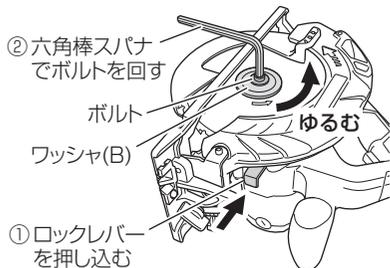
 この作業時は必ずスイッチを切り、蓄電池を取りはずしてください。

1 切込み用レバーをゆるめ、切込み深さを大きくする

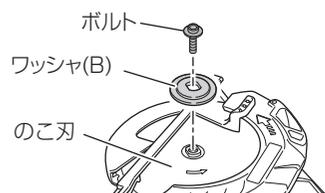
P.21「直角に切断する」①を参照してください。

2 のこ刃軸を固定する

ロックレバーを押し込みながら、付属の六角棒スパナ(本体収納)で、ボルトを反時計方向に回すと、のこ刃の回転が止まる位置があります。この状態でのこ刃軸が固定されます。



3 六角棒スパナを反時計方向に回し、ボルトとワッシャ(B)をはずす

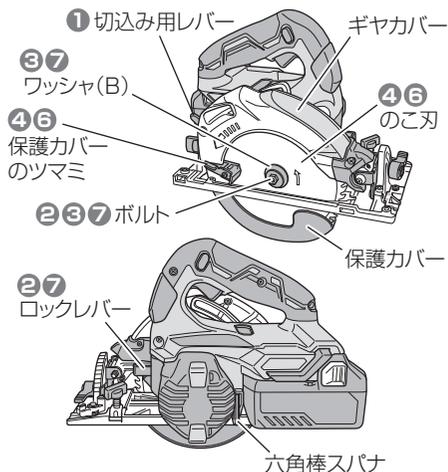
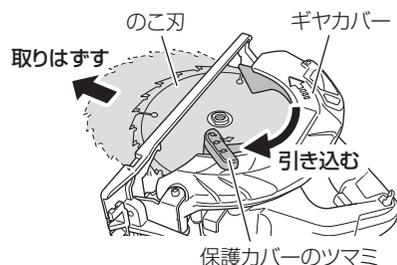


警告

- のこ刃の交換は、安定した台や床の上で行ってください。
- ボルトの着脱は、付属の六角棒スパナで作業してください。付属以外の工具を使用すると、締めすぎや締め付け不足になります。

4 のこ刃を取りはずす

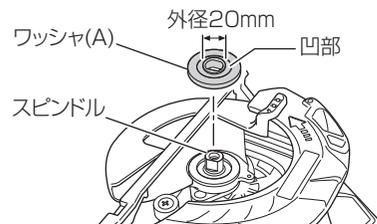
保護カバーのツマミを持って、保護カバーをギヤカバーの中に引き込み、のこ刃を取りはずします。



注 のこ刃の取付け前にギヤカバー内側やスピンドル、ワッシャ(A)、ワッシャ(B)に付いている切りくずをよくふき取ってください。

5 ワッシャ(A)の穴形状をスピンドルの形状に合わせてさし込む

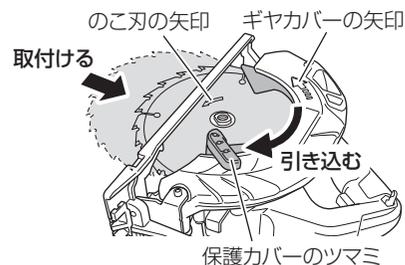
ワッシャ(A)は、穴径20mmののこ刃だけが取付けできるようになっています。



注 切断トイシは使用できません。

6 のこ刃を取付ける

保護カバーのツマミを持って、保護カバーをギヤカバーの中に引き込み、のこ刃の矢印がギヤカバーの矢印方向と一致するようにのこ刃を取付けます。

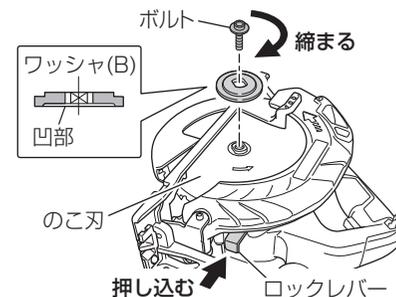


注 ワッシャ(A)、ワッシャ(B)は、機体に取付けてある物を使用してください。

7 のこ刃を固定する

ワッシャ(B)の凹部をのこ刃側にして取付け、ロックレバーを押し込みのこ刃軸を固定して、付属の六角棒スパナで、ボルトを時計方向にしっかりと締め付けます。

(P.17「ご使用前の点検」②参照)



のこ刃を締め付けた後、ロックレバーが元の位置に戻ることを確認してください。

8 のこ刃の取付けを確認する

ロックレバーを押し込まない状態で、六角棒スパナでボルトを締める方向に回すと、のこ刃が回転します。ガタつきやブレがなく、円滑に回転することを確認してください。

保守・点検

⚠ 警告

- 点検・お手入れの際は、スイッチを切り、蓄電池を工具本体から取りはずしてください。
- エアガンなどを用いて風穴や保護カバーなどに空気を吹き込む際には、保護メガネと防じんマスクを使用してください。

●機体の点検

各部分の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い求めの販売店に相談してください。

●端子部の点検

工具本体や蓄電池の端子部に切りくず、ほこりがたまっていないか点検してください。作業前、作業後のほかに作業中でも時々点検してください。

●のこ刃の点検

⚠ 警告

切れ味の悪くなったのこ刃は使用しないでください。無理して使用すると、切断時の反力が大きくなり、けがの原因になります。

切れ味が悪いのこ刃を使用すると、モーターに無理がかかり、作業の能率も落ちます。

また、蓄電池の消費が増え、使用時間が短くなりますので早めに目立てするか、新品と交換してください。

●モーターの取扱いについて

モーター（内蔵）（P.9「各部の名称」参照）に、油や水が浸入しないよう十分に注意してください。

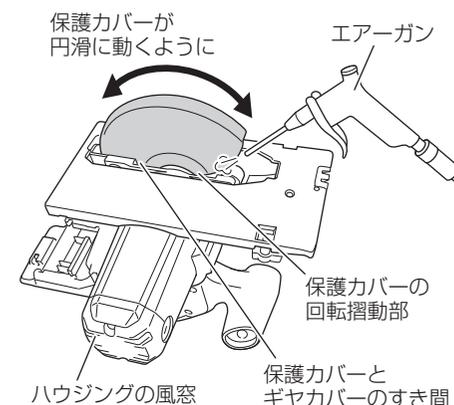
注 50時間くらい使用したら、エアガンなどを用いて湿気のない空気をハウジングの風穴から吹き込んでください。モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。

●清掃する

機体が汚れたときは、石けん水に浸した布をよく絞ってからふいてください。ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。

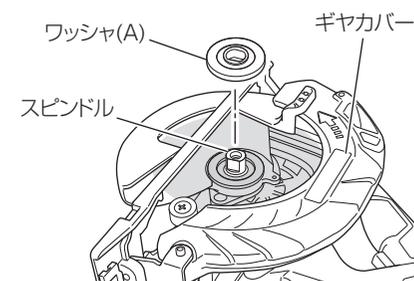
●保護カバーの点検と保守

- 保護カバーは、いつも円滑に動くようにしてください。なお、不具合のときは速やかに修理するようにしてください。
- お手入れ・掃除の際には、エアガンなどを用いて湿気のない空気を保護カバーの回転摺動部や保護カバーとギヤカバーのすき間へ吹き込んでください。切粉等の排出に効果があります。保護カバーの周りに切粉等がたまると、作動の不具合や故障の原因になります。



●ギヤカバー内側部の掃除

切粉等がたまらないように定期的に点検・掃除をしてください。点検・掃除は、のこ刃を取りはずして行ってください。



●機体や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

- 注**
- お子様の手が届く場所、持ち出せる場所
 - 軒先など雨が掛かる場所、湿気のある場所
 - 温度が急変する場所、直射日光の当たる場所
 - 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

● リチウムイオン電池の輸送について

リチウムイオン電池を輸送する場合、次の点に注意してください。

⚠ 警告

輸送会社にリチウムイオン電池を含む荷物であること、および電力量を伝えて、輸送会社の指示に基づいた手続きを行ってください。

- 電力量が 100 Wh を超えるリチウムイオン電池の場合は、輸送貨物の分類上、危険物扱いとなり、特別な申請等が必要になります。
- 海外へ輸送する場合、国際法令および輸送先国の規制に従う必要があります。

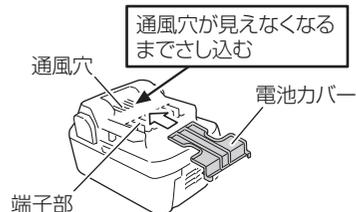


● リチウムイオン電池の保管について

⚠ 警告

リチウムイオン電池の端子部に導電性のある異物が入り込むと、短絡（ショート）して発熱・発煙・発火する恐れがありますので、保管するときは、以下の内容を必ず守ってください。

- 収納ケースに導電性のある切りくずや釘、針金や銅線などの線材を入れないでください。
- 短絡（ショート）するのを防ぐため、蓄電池は工具本体にさし込むか、電池カバーを取付けて保管してください。



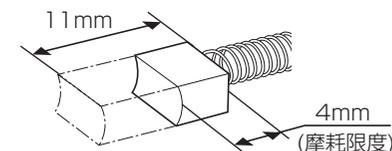
- 注** リチウムイオン電池を保管するときは、半分程度の容量で保管してください。蓄電池の残量が少ない状態で長期間（3か月以上）保管すると蓄電池が劣化し、使用時間が著しく短くなる、または充電できなくなる恐れがあります。充電と使用を繰り返しても使用時間が極端に短い場合は、蓄電池の寿命とご判断いただき、新しい蓄電池をお買い求めください。

● カーボンブラシの点検と交換方法

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しています。

カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因になりますので、長さが摩耗限度（4 mm ぐらい）になりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシはごみなどを取り除いてきれいにし、ブラシホルダ内で円滑に動くようにしてください。



- 注** 新品のカーボンブラシと交換の際は、弊社指定のカーボンブラシをご使用ください。

- 1 マイナスドライバーなどでブラシキャップを反時計方向に回してはずします。

- 2 カーボンブラシを取り出します。

- 3 新しいカーボンブラシをブラシホルダの角穴に合わせて指で押し込みます。

- 4 ブラシキャップでカーボンブラシを押しえ込みながら、マイナスドライバーなどで時計方向に回して締付けます。

